

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士（医 学）	氏 名	大 芦 孝 平
審査担当者	主査	教授	松 野 吉 宏
	副査	教授	山 本 有 平
	副査	准教授	濱 田 淳 一
	副査	教授	秋 田 弘 俊

学 位 論 文 題 名

悪性黒色腫の転移経路に関する動物実験
：リンパ行性転移と血行性転移の関連について

学位審査において申請者は下記の内容について発表した。

In-transit 転移は悪性黒色腫に特徴的な転移形態であり予後不良な病態として知られている。その悪性黒色腫の in-transit 転移を再現した動物実験モデルを作製し、その性質を解析することに世界で初めて成功した。リンパ節内の血管・リンパ管接続を介した悪性黒色腫の転移経路が存在することの証明を試みた点については、本研究では十分な解析ができなかった。

質疑応答についての概要は以下の如くであった。

濱田准教授から、病理組織における血管とリンパ管の評価において、数や太さではなく面積を計測したことの妥当性について、またから肺転移が多かった個体の病理組織において、腫瘍の脈管浸潤が多く観察されたのかに関して質問があった。秋田教授から悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍においては in-transit 転移は見られないのか、また in-transit 転移の動物実験モデルを用いることで、どのように臨床へ寄与できるかについて質問があった。松野教授から、臨床検体における in-transit 転移に特異的な所見が、過去に報告されているのかについて、また in-transit 転移巣における腫瘍細胞の性質の変化はどのような機序で生じているのかについて、および悪性黒色腫細胞とリンパ管内皮細胞の相互作用が、in-transit 転移の形成にどのように関与していたのかについて質問があった。山本教授から、リンパ節郭清術を行うことが in-transit 転移のリスクとなる可能性の指摘があり、悪性黒色腫の外科治療に関する質問があった。申請者は自らの研究データと過去の文献に基づき、これらの質問に概ね適切に回答した。

この論文は、これまで内容を発表した国内の学会および国際学会で高く評価され、悪性黒色腫の病態解明、治療法開発に関する基礎および臨床研究結果に有用な新知見を付与するものと期待される。審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。